

令和3（2021）年度 登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験  
合格基準および総評について

令和4年3月31日

登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会

【合格基準】

択一式問題	25問、50点満点
計算問題	4問（解答数計15題）、30点満点
記述式問題	問題1（800字）、13点満点 問題2（400字）、7点満点

- ① 択一式問題、計算問題、記述式試験の合計得点数が50%(50点)以上
  - ② かつ、択一式問題の得点数が60%(30点)以上
  - ③ かつ、計算問題の得点数が10点以上
  - ④ かつ、記述式試験の合計得点数が50%(10点)以上
  - ⑤ かつ、記述式問題1の得点数が50%(6.5点)以上
  - ⑥ かつ、記述式問題2の得点数が50%(3.5点)以上
- 以上①～⑥の得点数をすべて満たした者を合格とする。

申込者数：90名（うち、講習完了者数：79名、受験者数：66名）

合格者数：51名

合格率：56.7%（対申込者数）・・・参考：令和元年度の合格率は59.7%

【総評】

本年度は、コロナの影響を受け、登録コンクリート圧送基幹技能者認定講習をオンデマンドによるWEB講習といたしました。また、講師と受講者の相互のコミュニケーションを図るため、3回のオンライン対話を実施しました。

今回の講習では、

- ・不明な点について、その場で講師に質問することができなかった。
- ・グループディスカッションや受講者間の会話ができず、情報共有ができなかった。
- ・通信環境が悪く、講義の内容を理解しにくかった。あるいは、途中で受講をあきらめた。
- ・オンラインであるがゆえ、集中して受講することができなかった。

などが課題となった一方で、

- ・何度も繰り返し、受講することで理解が深まった。
- ・受講から試験までに時間があり、過去問題を解くなど、しっかりと試験対策ができた。

などの利点もあったと思います。その分、受験者の皆様の『自主的な学習』の成果が、試験結果に反映されることになりました。

本年度の合格率は、例年と変わらない 56.7%となりました（冒頭に記載）。試験の難易度や合否の判定基準は、例年と変わっていませんが、実際に試験を受けた人数（受験者数）に対する合格率は 77.3%と、例年よりも高い水準になっています。講義の内容を理解し、試験に向けて十分な準備をされた方が多かったことは想像に難くありません。

一方、残念ながら不合格となった方々も、計算問題や記述式問題の得点が向上しており、受講・学習の成果が見られました。ただし、一部の問題がよくできていても、別の問題ができていないがために、合格基準に達しておりません。資格認定には、すべての講習内容についての理解を必要としています。この点を踏まえ、再度のチャレンジを期待しています。また、途中で講習を断念し受験をあきらめた方々、せっかく講習を完了させたにもかかわらず、試験会場に来られなかった方々にも、再度のチャレンジを期待しています。

各試験問題の答案を分析した結果について、認定委員会の見解を以下にまとめましたので、今後の参考にしてください。

#### 【択一式問題について】

択一式問題については、講義をよく聞き理解できていることが確認できました。ただし、ポンプ車の運行、コンクリートの品質管理、材料・配合、点検・検査時のカラーチェックにかかわる設問の正答率が低く、やや理解が足りないように感じられました。

試験の合否に関わらず、講習テキストをよく復習し、再度のチャレンジに備えてください。

#### 【計算問題について】

計算問題については、圧送計画の実務に必要なものですが、やや理解が不十分な方が多いように感じました。特に、輸送管の仕様（肉厚）の選定にかかわる設問の正答率が低いのが特徴的でした。実務において安全な作業を行っていただくためにも、圧送作業で必要な計算知識の修得に心掛けてください。

なお、事前に過去の試験問題にチャレンジすることも重要です。得点の低かった方は、受験に向けた準備が足りないと感じられました。登録基幹技能者に必要な計算の知識は、講習を受けただけで習得できるものではありません。普段の実務などを基に、計算のおさらいをすること、過去の問題や今回の講習で配布された事前課題をしっかりと理解することなどで解ける試験問題です。これらに何度も取り組み、再度のチャレンジに備えてください。

これから登録基幹技能者を目指す皆様におかれましても、受験に向けて過去の問題や「最新コンクリートポンプ圧送マニュアル」で事前の学習に努め、自分が分からない箇所・質問したい箇所について事前に整理をした上で、講習に望むようにしてください。

### 【記述式問題について】

記述式問題については、字数が書けているものの、出題された項目（暑中コンクリート、登録基幹技能としての対策）について書かれていない答案がいくつかありました。実際に起きたこと（経験）、その時に対応したこと、そして今後に生かすべき対応・対策を文章に盛り込んでおく必要があります。また、書かれている対策が、登録基幹技能者としてふさわしくない内容のものがあり、これらを合格とすることはできませんでした。このほか、800字の問題1に時間を要してしまい、400字の問題2をきちんと書くことができなかった方（字数が足りない、途中で終わってしまっている）も見受けられました。

択一式問題が高い得点であっても、記述式問題の答案が書けておらず残念ながら不合格となった方もいます。登録基幹技能者の業務においては、現場や元請会社への提案力が必要とされることから、認定試験では、ご自身の経験や考えを「文章にまとめる力」を判定しています。講習中に配布した文書の書き方の資料を参考に、過去に出題された問題で訓練を重ね、再度のチャレンジに備えてください。

まこれから登録基幹技能者を目指す皆様におかれても、事前に過去の試験問題にチャレンジして、受験に向けた答案作成練習をしっかりと積んでほしいと思います。

試験の合格者にはさらなる研鑽を積まれることを期待するとともに、残念ながら今回不合格となった方々には、次年度に再度のチャレンジを期待しています。追試試験だけでなく、もう一度講習から受け直すことも合格への大きな近道ですので、どうかご一考をお願いいたします。